

【各種試験の方法】

JIS L 1922 プラーク測定法

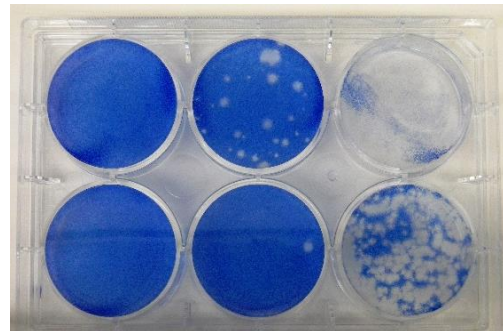
繊維製品の抗ウイルス性試験の中で最も一般的な方法です。

一般社団法人繊維評価技術協議会SEKマーク基準の試験方法に採用されています。

類似の海外規格：ISO 18184

【概要】

抗ウイルス加工をした試験試料と、比較となる対照試料（綿標準布）にウイルス液を接種し、一定時間生地とウイルスを接触させます。接触後、試料上のウイルス数をプラーク測定法により測定します。試験試料と対照試料のウイルス量を比較することで、抗ウイルス活性値を計算します。



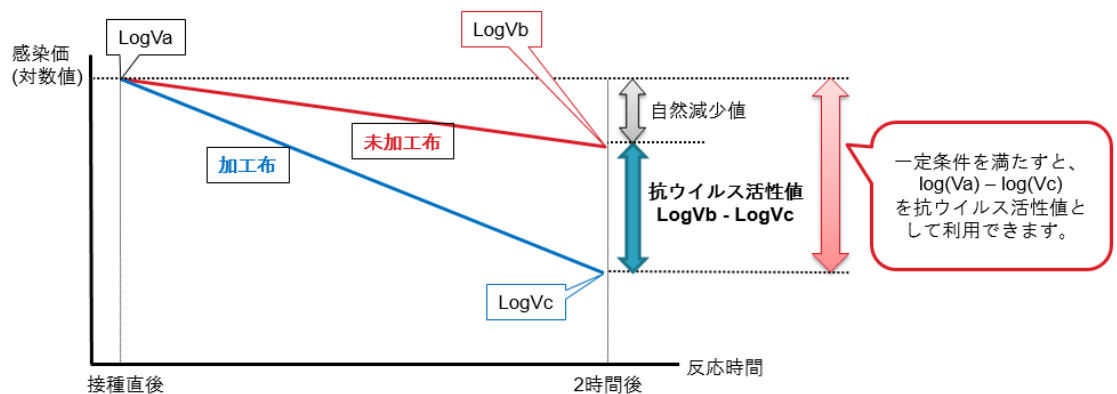
【評価／基準値】

抗ウイルス活性値【Mv】により評価。

活性値計算式	基準	基準値	効果の説明
抗ウイルス活性値[Mv] $\text{LogVb} - \text{LogVc}$ $(\text{LogVa} - \text{LogVc})^{*1}$	JIS 基準 ^{*2}	$3.0 > [\text{Mv}] \geq 2.0$	効果あり
		$[\text{Mv}] \geq 3.0$	十分な効果あり
	SEK 基準	$[\text{Mv}] \geq 3.0$	—

※1：一定条件を満たした際に利用可能な計算式

※2：参考基準




Mv: 抗ウイルス活性値

LogVa: 対照試料の接種直後の感染価の常用対数値

LogVb: 対照試料の培養後の感染価の常用対数値

LogVc: 試験試料の培養後の感染価の常用対数値

【試験ウイルス】

ウイルス種		JIS規定	SEK 基準  抗ウイルス加工
A型インフルエンザ ウイルス	H3N2亜型	○	○
	H1N1亜型	○	—
ネコカリシウイルス	—	○	○

○: 製品の使用用途に応じて任意に指定できます。

「JEC301 SEKマーク繊維製品認証基準」では加工の洗濯耐久性を評価するために、
認証基準で定められた洗濯処理を行った試験布についても試験を実施いたします。

その他の規格外の試験ウイルスについても対応いたしますのでご相談ください。

本部

〒111-0051
東京都台東区蔵前
2-16-11
Tel: 03-3861-2341